

(案)

公共施設マネジメント実施計画見直し検討会議 議事録

会議名	第5回 公共施設マネジメント実施計画見直し検討会議	
日時	令和3年11月19日(金) 午後3時から午後4時30分まで	
開催場所	蒲郡市役所305会議室、オンライン会議システム Zoom	
出席者	委員	<ul style="list-style-type: none">・名古屋大学教授 高野雅夫・名古屋大学教授 恒川和久 (Zoom)・愛知工業大学講師 益尾孝祐 (Zoom)・(株)三菱総合研究所 主席研究員 川口荘介 (Zoom)・企画部長 大森康弘・総務部長 平野敦義・建築住宅課長 倉橋正博 (建設部長代理)・教育部長 嶋田丈裕
	事務局	総務部 小田次長 公共施設マネジメント課 高橋課長 上田課長補佐 尾寄 尾崎
議題	<ul style="list-style-type: none">・実施計画(案)について・今後の策定スケジュールについて	
1 開会 (恒川会長) 開会		
2 実施計画(案)について (教育部長) 社会教育施設のビジョン(案)について説明 (恒川委員) 実施計画を意識してか、建物自体のあり方についてはあまり書かれていない。 (教育部長) 図書館については、現状の位置では長寿命化や建替えは難しいと考え、市民ニーズも踏まえ蒲郡駅周辺で新たに建築するとした。それ以外については、新築や改築、他の施設との複合化も含め、対応できるものとした。 (恒川委員) 学校との連携など、昨年度有識者会議で取り上げたものが盛り込まれている。しかし、市として難しいのかもしれないが運営による市民参画という点が含まれていない。 (益尾委員) 書くことができる範囲で、活用の方針を示した資料として認識している。 あとは、各施設の避難施設としてのあり方など防災面の記載が気になっているが、市民への情報提供の位置づけにより書き方が異なると思う。		

(教育部長)	ハザードマップにおける各施設の被災想定を追記する予定でいる。
(恒川委員)	ビジョン（案）となっているが、いつ（案）がとれるのか。
(教育部長)	来週、市長と教育委員が参加する総合教育会議において審議した後、臨時の教育委員会を開き、最終決定を行う。その後12月の文教委員会で報告を行う予定。
(事務局)	実施計画（案）の修正点について説明
(高野委員)	市民会館、図書館、生涯学習センターを1つの場所に建設すると、明確化されている点がよかったと感じる。残りは博物館で、新しい市民会館と集合するのもありだと感じる。現在の書き方だと、科学館と博物館の複合化を想定されているが、科学館よりは生涯学習センターの方が、親和性が高いと感じる。将来の博物館は、単に過去の遺物を展示するだけでなく、未来のまちづくりのための情報基盤としての役割も担うと思う。例えば、中国には都市計画博物館があり、将来の都市計画として通りやビル1つ1つを作った模型がある。生涯学習も地域の課題解決の学びの場としての側面もある。 一方、科学館はサイエンスに力を入れており、科学館と博物館が一緒だと違和感がある。
(事務局)	おそらく36ページ下の図で、「機能再編の検討」と書いたため混同してしまったかもしれない。特に、科学館と博物館を集合しようという訳ではない。同じ社会教育施設としてリーディングプロジェクト内で、この2施設についても再編が検討できないかということを示したかった。 科学館の機能を、リーディングプロジェクト内に落とし込むことも考えられる。博物館は耐震化済み、調音・調湿ができる優れた施設であるため活用していきたいので、こちらも機能をうまく再編していけるとよいかと考えている。 そういった意図で、「機能再編の検討」を2つの施設に入れた。分かりづらいようだったら修正する。
(高野委員)	65ページには「それぞれを3つの核として」というようなニュアンスで書かれている。3つの施設以外が入る余地がないように感じた。65ページの方を修正した方がよい。
(事務局)	65ページには核という書き方がしてあるが、その3つはほぼ確定なのかなと考えている。その他にも、関連機能も検討して

	いくという書き方をしているが、読み取りにくいようであれば修正する。
(高野委員)	幅広く捉えられるような書き方がよいのではないか。
(事務局)	検討します。
(恒川委員)	65ページで「令和13年までに」整備をしますと書かれている。かなり先という印象を受けるので、前倒しで整備することは検討できないか。
(事務局)	令和13年は、今後10年以内に整備まで行うことを目安に設定した。予算との関係もあるが、早く進められるものがあれば進めていきたいというのは、教育委員会とも合致している。
(恒川委員)	今回の計画期間が令和13年までなので、期間内ということもあるだろう。例えば「令和13年までの早い段階で」といった表記だと、早めにやるんだという意識がリーディングプロジェクトから受け取ることができる。
(事務局)	内部調整も必要になってくる。検討する。
(高野委員)	65ページで、リーディングプロジェクトに市民がどう関わることなのかをもう少し踏み込んで書いた方がよい。「市民の皆様のご意見を伺いながら」というのは、具体的にどう伺っていくのか。アンケートをとる、計画策定の委員として市民に入ってもらうなどが想定される。市民参加型で作っていくという点を強調してほしい。
(事務局)	市民参加の全般的な話は第2章で書いてはいるが、第5章にも上手く反映させる方法を検討したい。基本構想策定を策定する際には、市民アンケートは取っていきたくて考えている。また、策定委員会を立ち上げ、その中に市民の方に入っていくことは必要だと考えている。
(恒川委員)	費用について財政的に見込みがついているのかという点について書くべきではないか。
(事務局)	そこまで書くことができればよいが、書きづらいところだと思う。30ページで、ある程度の費用の縮減見込みを書いている。ただし、財政とのリンクは書けてはいない。
(恒川委員)	総務省に出す公共施設等総合管理計画との関係で、蒲郡市としての達成見込みなどは書かなくてもよいのか。
(事務局)	公共施設等総合管理計画では、今後10年間の見込みを示すと聞いている。そこでは、収入を補助金、市債等を見込みを元に出している。しかし、この実施計画は更に長期間に渡るものに

なるため、公共施設等総合管理計画と数字を合わせることは難しい。

(恒川委員) 同じ自治体が出す計画になるので、どちらも意思統一ができていとよい。

(川口委員) 30ページで、個別施設計画では各担当が今後10年間の更新計画を策定している。更に今回の実施計画では、個別施設計画の更新費に積み増しているため、実施計画と個別施設計画の関係性が分かりづらい。

個別施設計画を積み上げても、必要な維持更新費用には足りないので、PFIや設計の工夫などで改善をしていきますというロジックになっている。ただし、PFIや設計の見直しだけでは差額は埋まらないため、この計画に基づいて施設の再編や廃止を行った上で、PFIなどの導入を進める必要がある。そのため「さらに個別施設計画の見直しを行いつつ」の部分を具体的に示すべきだ。現状だと、PFIなどソフト施策のみで維持更新費用を捻出すると勘違いされてしまう可能性がある。

(事務局) 書き方を検討する。

(川口委員) 総務省に個別施設計画を提出するのではないか。

(事務局) おそらく公共施設等総合管理計画ではないか。現状の公共施設等総合管理計画には、個別施設計画を積み上げた金額が載っているの、国に示されたものとリンクするのは、個別施設計画だろうと感じる。

(川口委員) そうなると実施計画の第4章は国に出すものとは異なるのか。

(事務局) おっしゃるとおりです。

3 その他

(事務局) 今後のスケジュールについて説明